

令和6年度第2回東松島市総合教育会議議事録

日 時 令和7年3月17日（月）午後3時から午後4時10分

場 所 東松島市役所 3階 301会議室

出席者 東松島市長 渥美 巖
東松島市教育委員会 教育長 志小田 美弘
東松島市教育委員会 教育委員 木村 和彦
東松島市教育委員会 教育委員 福田 ゆかり
東松島市教育委員会 教育委員 松岡 勝久

傍聴者 2人

次 第

1 開会

2 あいさつ 東松島市長 渥美 巖

3 議題

（1）報告事項

- ①令和6年度「友好都市東京都大田区子ども交流事業」及び「北方領土青少年等現地視察」について
- ②全国体力・運動能力調査の結果及び本市の体力向上について
- ③令和7年度教育関係事業について
- ④朗唱暗唱撰集「読書三到」について

（2）協議事項

東松島市が目指す家庭教育支援
～令和6年度東松島市社会教育委員会議からの提言を受けて～

（3）その他

児童生徒数の推移について

4 閉会あいさつ 東松島市教育委員会教育長 志小田 美弘

5 閉会

事務局（総務課）

ただ今から、令和6年度第2回東松島市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、渥美市長からご挨拶を申し上げます。

渥美市長

本日は、令和6年度第2回東松島市総合教育会議に、木村委員、松岡委員、鹿野委員、福田委員の皆様にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

3月も半ばを過ぎ、3/6は中学校、3/19は小学校の卒業式となっているほか、令和7年第1回定例議会も3/7に閉会し、当初予算についても承認いただいたところであります。後ほど詳細な報告はいたしますが、かねてよりお話ししていた「小中学校の学校給食費保護者負担金」を、今年度は1/2を市が負担しておりましたが、来年度は2/3まで負担することで、保護者の経済的負担軽減を図ってまいりたいと思っております。

現在、日本全体で人口減少が進んでおり、生き残りをかけた自治体間の競争が激化している中、若者や女性から選ばれるまちとなるには、働く場の創造としての企業誘致や子育て支援策の充実が重要となってまいります。引き続き、学力向上に向けた子ども達の夏休み4日間短縮や、今年度から初めて実施した友好都市東京都大田区や、30年以上続く北海道更別村との子ども交流の実施、また来年度からは、市制施行20周年東根市や蔵王町との交流も行う予定でありますので、様々な経験ができるような環境も整えていきたいと思っております。

また、大曲小学校校舎改築工事も順調に進んでおり、来年度末には完成する予定でありますし、図書館増築についても、4月末には完了し、7月から再開館する予定であります。鷹来の森運動公園大規模改修と縄文村歴史資料館収蔵庫増築についても、来年度中に工事が完了する予定となっております。市全体の公共施設整備も一旦落ち着く予定となっております。

本日の会議では、「デジタルメディアとのかかわりについて」を協議事項としており、現在、小中学校では子供たちがゲームやスマホの時間を決めて使うことに取り組んでいますが、親世代の方にも使い方を見直していただくことを広く周知していきたいと提案いただきましたので、本日は子育て支援課や健康推進課など保健福祉部の職員も一緒に意見交換したいと思っておりますので、委員の皆様も忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

事務局（総務課）

それでは議題に入ります。東松島市総合教育会議運営要綱の規定に基づき、市長を議長として進行します。渥美市長よろしくお願ひいたします。

渥美市長

それでは、要綱の定めるところによりまして、議長を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。早速議題に入ります。

はじめに、議題（1）報告事項、①令和6年度「友好都市東京都大田区子ども交流事業」及び「北方領土青少年等現地視察」について、②全国体力・運動能力調査の結果及び本市の体力向上について、③令和7年度教育関係事業について、④朗唱暗唱撰集「読書三到」について、一括して事務局から報告いたします。

事務局（総務課）

資料1ページから9ページ説明。

事務局（教育総務課）

資料１０ページから１７ページ説明。

渥美市長

ただ今説明のあった４件について、委員の皆様から何かご質問ございませんか。

①令和６年度「友好都市東京都大田区子ども交流事業」及び「北方領土青少年等現地視察」について

木村委員

大田区こども交流事業は継続されるのですか。

渥美市長

デンマーク基金を活用して、継続していきます。参加者負担金を５，０００円とし、参加しやすい金額設定としました。子どもたちの作文からも、とてもいい思い出となったようです。

②全国体力・運動能力調査の結果及び本市の体力向上について

松岡委員

外遊びが奨励され、昔は公園で野球、サッカーやバスケットボールをしたりできましたが、外遊びできる施設はあるのですか。

事務局（教育総務課）

公園等で球技はできなくなっている現状はあるので、放課後は学校の校庭を開放し、体を動かしてから帰るように呼びかけをしているところです。

福田委員

全国との差で考えたとき、宮城県は車社会であり、雨が降ると登下校を車で送迎する保護者が多く見られます。子どもを大事にする気持ちも分かりますが、もう少し歩く習慣がつくといいのかなと感じました。

渥美市長

８４６０チャレンジとはどのようなものですか。

事務局（教育総務課）

８４６０と書いて「走ろう」と読ませています。月間８，４６０ｍ走ると、年間で約１００ｋｍ走る計算になるので、各校で持久走の取組と併せて走る機会を作っていただいています。年間１００ｋｍを達成した児童には教育委員会から賞状を差し上げています。

渥美市長

目標を持たせたせる取組でいいですね。

木村委員

記録は年1回だけですか。例えば、春と秋に2回実施すると自分の記録が比較でき、目標を持てていいのかなと思います。

事務局（教育総務課）

業者に依頼し記録を測定するのは年1回ですが、学校によっては目標を持たせるという意味で、秋や年明けにもう一度測定の機会を設けるなど、子どもたちに記録向上の意欲を持たせて取り組んでいる学校もあります。

③令和7年度予算関係について

渥美市長

矢本東小学校の冷温水発生機改修事業は実際どういうものですか。

事務局（教育総務課）

エアコンのことではありますが、規模が大きいので普通のエアコンではなく、防衛仕様のものになります。

渥美市長

太陽光パネル設置関係は脱炭素選考地域で優先的に補助がありますのでこちらの財源を活用して実施しています。図書館については、7月初めにオープンできるように進めています。津波浸水想定区域に入っていることから、一部2階建てになっています。

ソフト事業では、8小学校が英語の特例校に指定されていますが、県内で何自治体が指定されていますか。

教育長

蔵王町、白石市、松島町の3自治体です。

渥美市長

英検チャレンジも本市独自で受験料を全額市で負担していますが、合格率はどうか。

事務局（教育総務課）

前年と比較しても同じくらいでした。

教育長

4級は中学2年生ぐらいのレベルで、5割を超えている合格率は高いほうかと思います。

渥美市長

不登校の実態はどうですか。

事務局（教育総務課）

いじめ、不登校は全国的にも増加傾向で、本市でも増加傾向にあります。今年の不登校については昨年度よりも若干抑制されています。いじめについては、積極的に認知し早期解決につなげることが大事であると通知されていますので、各校においても積極的な認知に努めています。

渥美市長

一食当たりの給食費が昨年より増加していますが、これは県内でも上位のほうですか。

事務局（教育総務課）

県内でも3，4番目ぐらいの上位のほうです。

渥美市長

単価が少し高くてもいいものを提供しているので、学校の先生が食べ比べればわかるかもしれませんね。

事務局（教育総務課）

全国給食オリンピックでも入賞していますので、いいものが提供できていると思います。

④朗唱暗唱撰集「読書三到」について

渥美市長

朗唱暗唱は全員に配りますか。

事務局（教育総務課）

新年度の4月に全児童に配付します。

木村委員

スマホよりこの本を見る機会が多くなってくれるといいですね。

松岡委員

毎年更新されるのですか。

教育長

しばらくはこれを使用します。朝の時間や国語の時間などを利用して朗唱暗唱するなど各学校に工夫、取組をお願いしていきます。読書三到とは、口で読む、目で読む、心で読む三到です。本市の学校を卒業した子どもたちは、古文、漢文の一つ二つ三つは諳んじることができるようにしたいと思っています。

渥美市長

ありがとうございました。

それでは、続きまして（２）協議事項に入ります。

東松島市が目指す家庭教育支援～令和６年度東松島市社会教育委員会議からの提言を受けて～について議題といたします。事務局から説明をお願いします。

事務局（生涯学習課、教育総務課、健康推進課）

資料１８ページから１９ページ説明。

渥美市長

ありがとうございました。

提言にあったとおり、スマホやゲームの依存的利用は、子育てにおいて今や避けて通ることのできない大きな問題となっております。本日は、その点を中心とした、子どもの生活習慣の確立について話し合ってまいります。ご質問等ございませんか。

松岡委員

私も子育てをしている最中ですが、スマホをよく見がちになってしまっていて、娘もスマホやiPadを使いこなしています。教育委員会だと小学生から指導いただけますが、未就学児が使用しすぎるとどのような影響を与えるのかなどの指導は、その保護者に対して指導することが一番大事であると思います。教育委員会、保健福祉部と課を超えて全世代的に発信していかなければならない問題だと思いました。

渥美市長

たとえば私立幼稚園で「でめこん」問題について、教育委員会ではそこまで入っていないと思いますが、浸透度はどうですか。

事務局（教育総務課）

直接、幼稚園への浸透度は伺ったことはありませんが、きょうだい関係がおりますので、必然的に「でめこん」ということばは認識し始めているのではないかと思います。いざ自分の行動に置き換えたとき、浸透度としてはこれからかなという実感はあるところ です。

渥美市長

幼稚園の子どもも本市の大事の子どもなので、幼稚園の保護者にも理解していただかないとなかなか浸透していかないものです。

教育長

まさに、その辺のところをここで話し合い方向性を見出していきたい。例えば中学生、高校生で依存的になってからでは遅いので、便利な道具ではありますが、上手に使わないと依存してしまいます。幼保小連携会議がありますので、幼稚園から来た方にこういう話をしていくことも必要ですし、市長部局の健康推進課のテリトリーの中でもそういう働きかけも必要だろうと思います。

また、色々なことが明らかになってきていて、目が悪くなる、睡眠時間が不足する、脳の発達そのものに大きな影響を及ぼします。ましてや小さければ小さいほど、小さ

い子どもがアルコールを飲むのと同じくらい危険なことであると思います。しっかりと若い父母にも理解していただきながら、上手に使っていかなければいけないと思います。

鹿野委員

教育長からも幼児にも使いすぎると良くないということを親にもっと知ってほしいとお話ありましたが、子育て世代の親は仕事をして帰ってきて、子どもと接したり、お話をあげたり、何かしてあげたい気持ちはあるが、時間もなくて自分が疲れてしまっていてできない状況というのもよくわかります。親の中にもスマホ、メディアに頼らないでやっていきたい気持ちは大いにあると思います。どうしたら頼らずに済むのか、きっかけや物の出し方がわからないのかと思います。

一つの提案として、スマホ以外で接する方法を知らせていくとよいのかと思います。例えば、食事の時に一緒に会話するなど、ごく当たり前のことを、そういう基本のことから少しずつ始めていけるといいと思います。子どもは親の背中を見て育つとよく言われるように、親がスマホを触っていれば、子どももいいものだと思って取り入れてしまうので、親もその点に気を付けながらやっていく。親の気持ちも理解しながら、一つ一つ丁寧に親にも知らせていかないと、将来子どもに与える影響は大きくなると思います。

福田委員

私の子育て時代はスマホもなく、どんなふうにしていたか思い出してみると、父親の手も借りられたのが大事だったと思います。今の世代の父母をみると、仕事で帰りも遅いし、核家族だと親の手を借りるのもなかなか難しい。目を合わせることもすらままならないくらいの忙しさだと思います。ちょっとの時間でもいいから、抱っこしてお話してあげるだけで子どもは満足するということをわかってないのかもしれない。教育長がお話したように、アルコールを飲むのと同じくらい危険であることを啓発していく必要があると思いました。

木村委員

子育てのことを考えると、スマホがない時代でしたから、子どもの間で何が流行っているのかなど、同じ話題をよく話していたと思います。このようにスマホの悪い部分がわかってきているので、皆さんで問題意識を共有していき、改善に向けて継続していくことが大事であると思います。

スポーツに関しては、体力的な問題もありますが、外で遊ぶ運動が大事だと思います。ひとつお願いとしては、市民体育館にエアコンをつけるなど、夏場に遊ぶ場所がなかなかないので、例えば、学校の中の廊下を特別に夏場だけ廊下を走ることを認めるというような運動の機会があってもいいのかと思いました。体を使う遊びを親子で体験できるようなプログラムがあるといいのかなと思いました。

鹿野委員

雨や雪が降った時に、室内で遊べる場所があるといいなと思います。遊具までなくてもいいので、子どもが自由に走り回れる広い場所をどこかで提供してもらえるといいです。

渥美市長

市民体育館、地区体育館、小中学校体育館を大いに活用してもらいたいと思います。最近では体育館に遊べる器具がある所など増えてきていますが、本市ではまだやっていない状況でした。ここまでのことを踏まえて教育長からお願いします。

教育長

総合教育会議に保健福祉部長はじめ、健康推進課、子育て支援課と同席いただいて、このように話ができるのがまさに本市の良さであると思います。今現に健康推進課において「でめこん」の動画を作ったり、イート君チャンネルで配信したり、検診の時にポスターを掲示したり、連携が始まっています。こういうことをしている自治体はあまりないと思います。本市の学校の中ではかなり認知されているデジタルメディアコントロール「でめこん」という言葉を使いながら、教育委員会と保健福祉部でタッグが始まっているので、これを続けること、改善を続けること、連携を続けることで取組をブラッシュアップしていければいいと思います。やれることが出てくるし、幼保連携会議でも参加する幼稚園の園長先生にも情報提供していきながら、そういうことをこれからさらにやっていくことで、連携が強くなるし深まるし広がっていくものと思っています。こういう場でこのような話題になったことがありがたいと思っています。

渥美市長

本日頂いたご意見を基に、関係課の連携を一層進め、子どもたちのよりよい生活習慣の形成を図ってまいりたいと思います。以上で、協議事項を終わります。

最後に（３）そのについて事務局説明をお願いします。

事務局

資料２０ページ説明。

渥美市長

最後にその他、委員の皆さまからございませんか。

なし

以上で、予定の議題について、すべて終了いたしましたので、議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

事務局（総務課）

閉会のあいさつを志小田教育長をお願いします。

教育長

限られた時間ではございましたが、教育委員を交えて、教育委員会と市長部局の健康推進課が共通の協議題で話できたことをありがたく思います。今の子どもは２１世紀の真ん中を歩いている子どもたちですが、デジタルの社会でどうなっていくのだろうと考えることが無駄なそうです。どう変わっていくかはわからなくて、それぐらい大きく変

わっていく、想像もつかないくらいに変わっていく。であれば、人としての根っこの部分を育て、何が変わろうが大事な根っこをしっかり持っている子どもたちを育てていくしかないのだろうなと思います。先ほどの読書三到もそうですが、学齢期の子どものみならず、加えて乳幼児とその保護者に対してしっかりタグを組みひとつずつ続けていくことが改めて大事であると思いました。今日を出発点として、色々な知恵を出し合いながら、本市の子どもたち、これから生まれてくる子どもを含めて、子どもたちのために何ができるのか、何をしたらいいのかをしっかりと考えていけたらいいなと思っています。今日はありがとうございました。

事務局（総務課）

以上をもちまして、令和6年度第2回東松島市総合教育会議を閉会いたします。